



13 気候変動に 具体的な対策を



気候変動に具体的な 対策を取ることは なぜ大切か

目標の内容は何ですか。

気候変動とその影響に取り組むため、緊急の対策を取ることです。

なぜ、この目標が設定されたのですか。

人間の活動に起因する気候変動は、私たちの生活様式や地球の未来を脅かしています。私たちは気候変動に取り組むことにより、あらゆる人にとって持続可能な世界を構築できます。しかし、行動は今すぐ起こさなければなりません。

人間の暮らしは、本当に気候変動の影響を受けているのですか。

はい。異常気象や海水面の上昇は、先進国、途上国の人々と財産に影響しています。フィリピンの零細農家からロンドンのビジネスマンに至るまで、気候変動は貧困層や社会的弱者、さらには女性、子ども、高齢者といった社会の周辺に押しやられた人々を中心に、あらゆる人に影響を及ぼしているのです。

今後 15 年間に
60 億米ドルを防災に
投資すれば、
3,600 億米ドルの損失を
回避できます。

私たちが何も対策を取らなければ、どうなりますか。

気候変動を放置すれば、何年もかけて達成されてきた開発の前進の多くが台無しになってしまいます。また、すでに見られているように、食料不足や水不足をはじめ、紛争の原因となりかねない現状の脅威もさらに悪化しかねません。

何もしなければ、私たちはすぐに対策を取った場合よりも多くのコストを被ることになります。私たちには、より多くの雇用、より大きな豊かさ、よりよい生活をすべての人にもたらしながら、温室効果ガス排出量を削減し、気候変動に対するレジリエンスを構築する行動を起こすチャンスがあります。

私たちはこの問題を解決できるのですか。それとも、もう手遅れなのですか。

私たちが気候変動に取り組めることは間違いありませんが、私たちの取り組みを大幅に拡大することは必要です。世界はそのエネルギー、産業、輸送、食料、そして農林業のシステムを変革することで、地球の平均気温の上昇を摂氏 2 度未満、そして願わくは摂氏 1.5 度未満に抑えられるようにせねばなりません。また、今後の気候変動による影響を予期し、これに対する適応力とレジリエンスを高める必要もあります。

2015 年 12 月、世界はパリ協定を採択し、すべての国が気候変動への取り組みを約束することに

よって、大きな一歩を踏み出しました。多くの企業や投資家も「気候アクション・アジェンダ」を通じ、排出量の削減を約束しています。2014 年にニューヨークで開催された国連気候サミットで生まれた協調的かつ非公式な取り組みとして、政府と企業、市民社会はこの指針のもと、一丸となって、気候変動対策を推進する新たなイニシアティブに取りかかることになりました。

問題の解決には、どれだけのコストがかかりますか。

問題の捉え方として、どれだけの費用がかかるのかというよりも、何もしなかった場合のコストがどれだけになるかを考えるべきです。日常的に行われている投資の目先を変え、気候変動に取り組む投資を行うことは、理に適っています。官民のクリーン・エネルギーに対する投資総額は 2030 年までに、少なくとも年間 1 兆米ドルとする必要がありますが、気候変動に対するレジリエンスの構築には、さらに多くの投資が必要となります。

これは膨大な額に見えるかもしれませんが、2013 年の全世界のエネルギー供給に対する投資総額 1 兆 6,000 億ドルのうち、70% 近くが化石燃料に関連するものであることを考えてみてください。しかも、この緩和費用の推計は、気候変動削減による恩恵を考慮

に入れていません。今後 15 年間で防災にわずか 60 億ドルの投資を行うだけで、投資期間中に回避できた損失という点で、3,600 億ドルの利益が得られることとなります。

今すぐに行動することで、私たちは人命を救い、資金を節約し、これまでに達成してきた前進の挫折を避けることができるのです。

この目標を達成するため、私には何ができるのですか。

私たちがひとりずつ、個人としてできることはたくさんあります。何ができるかについて詳しくは、こちらをご覧ください。

http://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

日本語訳：国連広報センター



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD